

生涯學習情報誌

Life Learning

8 2018
Aug.
NO.336



募集
開始

2018(平成30)年度

博士号

取得支援事業

生涯学習開発財団は、「人間は感動する心を失わず、何ごとかを学び続ける限り、年齢にとらわれない生き方をすることができる」という理念のもと1983年に設立されました。

平均寿命が延びる今、定年後も学習を継続し、社会へ貢献し続ける中高年の存在は、日本社会にとって大きな支えとなります。

財団では、現在博士号の取得を目指す50歳以上の方々を対象に、2011年度から支援事業を行っています。この取り組みを通して、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作りに貢献することをめざしています。

本事業は、国籍や性別を問わず、また、研究領域は文系・理系を問いません。独創的で社会的な意義のある研究を行い、博士論文を執筆中あるいは提出が予定されているすべての方に門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

■ 採用予定人数

特に人数は定めません。

■ 助成金の支給

- ・支給金額は一人あたり年間50万円
- ・支給期間は1年
- ・支給日は2019年3月

■ 応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上（性別、国籍、所属を問わない）
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程（博士後期課程を含む）に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者、もしくは博士論文の一部をすでに作成した者

- ・日本国内の大学で博士号を取得予定の者
- ・当財団のホームページ及び情報誌にて、氏名・年齢・研究タイトル・写真の公開を了承する者

■ 応募方法

（1）提出書類

- ・指定申請書
- ・身元証明書
- ・研究計画書
- ・推薦書 ほか

詳細は募集要項でご確認ください

（2）応募締切日

2018年12月14日（金）必着

■ 選考

提出書類および面接により選考

お問合せと募集要項の請求は下記まで



一般財団法人 生涯学習開発財団 博士号取得支援事業部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館9階 TEL 03-3508-4551
募集要項・申請書は <http://www.gllc.or.jp> E-mail hakushi@gllc.or.jp



生涯学習開発財団
国際交流事業

活 動 紹 介

ハーバード大学クロコディロス 2018日本公演

レポート
6/25～7/5

←今年の世界ツアーに
選ばれた栄誉ある12名。

財団理事長・松田妙子が名誉会員として日本公演を支援している、ハーバード大学の男声ア・カペラグループ「クロコディロス」。今年も世界12か国20都市を回るツアーの中で、6月25日に来日した。宿泊したシヤングリホテルのロビーでのフラッシュ・モブに始まり、東洋英和女学院大講堂でのコーチ・エイ主催コンサート、イタリア文化会館アニエッリホール、倶楽部グリーとのジョイントコンサート（帝京平成大学沖永記念ホール）などが、また各所でのパーティーライブなどが行われた。

7月2日には北陸新幹線にて石川県に移動。（公財）石川県音楽支援事業団のコーディネートにより、コンサートや交流が行われた。いしかわ特別支援学校では、コンサートのお礼として、産業技術コースの生徒たちが作ったケーキのおもてなしを受けた。県立金沢二水高校との交流では、リハールを行った7月3日の夜、クロコディロスメンバーが生徒の家にホームステイをし、翌日いっしょに登校。学校内のガレリアで開催されたコンサートでは、同校合唱部といっしょに「ふるさと」を披露した。

実は今年、松田妙子が支援を始めて30周年を祝う意味もあり、多数のクロコディロスOBが訪れてくれた。そして、松田妙子に加え、娘の佐藤梨奈（当財団事務局長）、佐藤玖美姉妹にも名誉会員の称号と記念品がクロコディロスより授与された。



↑アクションをしながらしっかりハモるのはすごく難しいです。



↑早稲田大学OBらによる倶楽部グリーと記念撮影。今回は12回目の合同コンサート。

←クロコディロスOBも2人登場し14人で歌った。



↑ホールによってステージの表情もさまざま。（上）東洋英和女学院中等部高等部大講堂。（下）イタリア文化会館アニエッリホール。



↑→東京公演最終日に、アップリアルタ西麻布にて開催された、松田妙子主催のパーティーにて。

→クロコディロスメンバーと家族で来日してくれたOBに囲まれて、財団新理事の熊丸羽衣子。



↓メンバーがこんなに!? なんと10名以上のOBが集まってくれました。



←クロコディロスから名誉会員に認定された佐藤姉妹に贈られた記念品。

石川県の高校生たちとも 音楽交流をしました



←↑いしかわ特別支援学校にて。コンサート後には子どもたちからお礼が。



↑→高い音響特性を持つ石川県立音楽堂コンサートホールでのランチコンサート。クロコディロスの美しいハーモニーがさらに素晴らしく響いた。



←↑石川県立金沢二水高校のギャラリーにてコンサート。全国にも名が通った名門合唱部と「ふるさと」のコラボレーションも。

祝

2018年3月 法政大学博士号(公共政策学)取得

小西雅子さん(取得時59歳)

【論文テーマ】気候変動政策推進のための国際NGOとメディアの相互作用に関する研究 — WWF戦略的舞台裏広報を中心として —

論文が私を、新しい世界に連れてってくれる可能性を感じています

■夢は必ず叶えてきた

子供の頃から夢を叶えてきた小西さん。アナウンサーにも、気象予報士にもなった。海外の大学院へ留学も、本の執筆も。そして博士号も……。

小西雅子さんは、WWFジャパンの自然保護室室次長兼気候変動・エネルギープロジェクトリーダーを務める。WWFは環境保全や自然と人間が共生するための研究、そして社会に向けた政策提言をする公益財団法人。パンダのマークで有名だ。

テレビ局でお天気キャスターをしていたとき、世界中で異常気象が増えていることに危機感を抱いた。温暖化を認識すると同時に、経済原理を活かして環境保全を追求する温室効果ガスの排出量取引制度を知り、その仕組みに強い感銘を受けた。そして、ハーバード大学の公共政策大学院に入学。排出量取引制度の権威のもとで修士号を取得。2005年に日本へ帰国した際、研究を活かせる人材募集をしていたのがWWFだった。WWFで研究やメディア対応をしていく中、博士号を取りたいという思いが強くなった。夢は必ず叶えたい。仕事と両立させ効率よく最短で取得することを目指し、2015年に法政大学大学院博士後期課程に入学した。

■経験を活かした独自性のあるテーマ

自分が得意で独自性のある博士論文とは。テレビというメディアでの経験。環境保全の最前線WWFでの経験。両方を合わせれば、自分だけの独自性が出せると思った。WWFで小西さんは、2008年から2015年のパリ協定まで、メディアの記者に



60歳前後で博士になった先輩2人の輝かしい後ろ姿にあこがれた。私も誰かにそう思ってもらえたらうれしい。

■暗黒の日々と自信喪失

環境問題の情報提供やレクチャーをするプロジェクトを担当した。環境保全は、科学、地政学、経済学、政治学などが複雑に絡んでいるため、記者自身の取材だけで問題を理解するのは困難だからだ。

「日本のNGOや研究機関も含めて、成果をアピールするのに苦労しています。WWFで9年間やってきたような手法で、NGOと環境報道ジャーナリストが相互作用を及ぼすことにより、環境政策の推進に役立つというのがこの論文の結論です」

独自性の一方で、自分の成果を自分で評価しても信憑性に欠けるといふ問題が残った。関連論文を英国のジャーナルに出した際、そこを鋭く突かれた。いかにして客観的な評価をするか。NGOの成果を国際交渉の文書から評価する手法を見つけて、やつ

と道が開けた。博士論文も大幅な修正を求められ、暗模索の日々が続いた。

「仕事以外はずっと論文と向き合い、効率。どころか、寝ても覚めても暗黒から抜け出せない辛さを味わいました。そんな中、指導教官の池田寛二先生が、天井から細い蜘蛛の糸を照らすように導いてくださいました。そして、論文の質を高めるだけでなく、日本の社会科学をより国際的に発信していく糸口にならなさいと励まされたのです」

結果的に最短の3年で取得したものの、追求しすぎるあまり自信喪失し、論文を読まれなくないともで落ち込んだ。しかし、高い評価とともに共同研究やセミナーの打診、共著で米国で本を出す話なども届き、やつと笑顔が取り戻せたという。いまは、「論文が自分で歩き始め、私を新しい世界に連れて行ってくれる可能性を感じています」と前向きだ。

■あなたに期待しているというメッセージ

「45歳でハーバードに行ったときは、どの奨学金も年齢の上限でだめでした。生涯学習開発財団を紹介してくれたのは、本事業で最初に博士号を取得した先輩の池上萬奈さんです。財団にとっても勇気づけられたという話を聞き、応募しました。この支援事業は『あなたに期待している』というメッセージと受け取りました。」

私自身が苦しんだので、安易に博士号を目指せとは言えません。でも、人生の節目で迷っているなら、自分がやりたい分野で輝いている人を見つけ、勇気や元気をもらおうと思います」